



# とっとり

公益財団法人  
鳥取県国際交流財団  
Tottori Prefectural International Exchange Foundation  
公益財団法人鳥取县国际交流财团

# 国際通信

No. 144  
Nov. 2023

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鸟取国际通讯 Bản tin quốc tế Tottori



表紙 Photo

令和5年度  
「よなご国際交流フェスティバル」(10/1)

2023 Yonago International Exchange Festival (10/1)

令和5年度「米子国際交流欢乐节」(10/1)

LỄ HỘI GIAO LƯU QUỐC TẾ YONAGO NĂM 2023 (1/10)



## 目次 Contents / 目录 / Mục lục

● TPIEF だより 主な事業の開催状況		● 特集 鳥取県海外研修員の紹介	06-07
● 市町村との防災における連携の取り組み	02	● 英語版・中国語版・ベトナム語版 ダイジェスト	08-09
● 医療・コミュニティ通訳ボランティア講座〈入門編〉	03	Information in English, Chinese and Vietnamese 英文版・中文版文摘・越语版 Bản tóm tắt bằng tiếng Anh-Hoa-Việt	
● 私費留学生奨学金 奨学生決定書授与式	03	● 賛助会員募集のご案内	10
● よなご国際交流フェスティバル	04	● おすすめ図書コーナー	10
● 山陰・夢みなと博覧会記念基金 助成事業の紹介	04		
● コロナ後の世界	05		
● JICAデスクよりお知らせ	05		

# 主な事業の開催状況

## 市町村との防災における連携の取り組み



▲かるたで防災の基礎を学びます

やさしい日本語を活用した防災かるたや防災クイズによるゲーム形式で防災の基礎知識を学習しましたが、ゲーム形式のため参加者の理解度は良かったと感じました。

このような防災学習を通じて、外国人住民の防災意識を高めていく取り組みを進めていく予定です。

大規模災害時に災害弱者となりやすい外国人住民への防災対策として、外国人住民が防災についての知識を得たり、実際に体験してみることでいざというときに備える意識を醸成するため、財団では市町村との協働企画の場を利用した防災学習を実施しています。

去る8月27日(日)には、お盆の台風で大きな被害に見舞われた八頭町で実施された避難訓練に合わせて防災学習を行い、町内の事業所に勤務する外国人実習生(ミャンマー人3名、中国人2名)が参加しました。

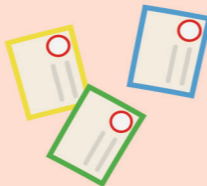


▲みんなで防災クイズに挑戦



### 防災かるた

外国人住民に覚えてほしい防災知識を「かるた」を通じて学んでいただくため、財団多文化共生コーディネーターが外国人住民の目線で作成しました。



▲防災ハンドブック

### 防災ハンドブック

携帯用の防災情報カード



地震・大雨や台風・大雪などに備えて何をしておくのかを“やさしい日本語”で説明しています。漢字にはふりがなを付け、できるだけ難しい語句や表現を使わず、簡単な表現を使用しています。災害時によく使われる日本語については、やさしい日本語を併記する他、英語・中国語・タガログ語・ベトナム語でも説明しています。

ダウンロードはこちら!



## 医療・コミュニティ通訳ボランティア講座〈入門編〉

2023年10月7日(土) 県民ふれあい会館(鳥取市) & オンライン 受講者:29名

財団では、病院や学校、市役所・役場などで、日本語でお困りの外国人住民と職員との会話を通訳する通訳ボランティアを募集し、派遣しています。

今回、通訳ボランティアへの登録をお考えの方と既に登録されている方を対象にし、基礎的な知識を学んでいただく入門講座を開催しました。講座では、まず「鳥取県内の多文化共生の現状」と題し、当財団の多文化共生コーディネーター グエン・ギより外国人住民を取り巻く現状や課題を共有しました。また、次の講義ではNPO法人国際活動市民中心(CINGA)コーディネーターの新居みどり氏を講師にお迎えし、様々な事例紹介を交えながらコミュニティ通訳にとって大切なこととお話いただきました。新居氏からは最後に「やさしい日本語」の重要性に関するお話もあり、受講者の皆さんからはやさしい日本語に対する感想も多く寄せられました。

次回はステップアップ講座として応用講座(実際の通訳場面を想定した通訳ロールプレイなど)を12月に実施する予定です。

### 受講者の声

- 外国の方が日本での生活の中で、何に困っているか生の声を聞いて参考になった。
- 外国の方は、日本人の自分からは想像できないことに困っていると知った。
- コミュニティ通訳にとって言語が話せることも大事だが、外国人が日本で暮らす上での背景を知る知識も重要だと分かった。
- 通訳と合わせて、やさしい日本語の重要性も認識できた。



## 令和5年度 私費外国人留学生奨学金及び鳥取県友好提携・交流地域私費外国人留学生奨学金(前期)

### 奨学生決定書授与式 7/3(月)



財団では、鳥取県内の大学、大学院、短期大学、高等専門学校に在籍する私費留学生へ奨学金を支給しています。6月に「私費外国人留学生奨学金」奨学生11名及び「鳥取県友好提携・交流地域私費外国人留学生奨学金(前期)」奨学生1名を、選考委員会を経て決定し、7月に決定書授与式を行いました。

奨学生には財団の事業や地域の国際交流活動等に積極的に取り組むことを期待しており、ボランティア活動などができる国際交流の場を探しています。「外国の方と交流してみたい」「母国の話を聞いてみたい」など、奨学生が参加、協力できる機会がありましたら、是非、財団までお声掛けください。



▲鳥取大学



▲公立鳥取環境大学

### 奨学生の声 Scholars' voices

私は公立鳥取環境大学3年生の姜星伊(キョウ セイイ)です。今回は私にとって2回目の奨学金授与であり、非常に光栄だと思います。奨学金の助けを受けて、学業により多くのエネルギーを注ぐことができ、同時に国際交流活動、特にボランティア活動により多くの時間を割くことができます。これらの経験は私の知識と経験を豊かにし、国際的な視野を広げてくれました。鳥取県国際交流財団からの奨学金サポートに非常に感謝しています。これからも国際的なリーダーになることを目指して努力し続けたいと思います。これからもよろしくお願いします!

## よなご国際交流フェスティバル

~ここからつながる世界とよなご 10/1(日)~



華やかなステージパフォーマンス

大好評だったクイズラリー

世界の珍しい民芸品の紹介

中国の切り絵体験

米子にいながら世界各国の文化を見て、体験して、食べて、楽しむ国際交流イベントを待ち望んだ方は多く、当日は多くの来場者でにぎわいました。今年のワールドバザールは、飲食ブースを再開し、日頃食することができない世界の料理に行列ができるほどの盛況ぶりでした。

また、展示・体験コーナーでは、クイズラリーが行われ各団体のクイズに驚きや発見がありブースの方々との交流が活発に行われていました。ステージパフォーマンスでは、日々練習を重ねてきた華やかな歌や踊り、短期留学した報告など見応えがあり、会場からあたたかい手拍子や拍手が響き渡っていました。

よなご国際交流フェスティバルは、参加団体が主体の実行委員会で運営を行っています。来場者から「ぜひ来年は、参加団体としてブース出展したい」という声も聞かれ、フェスティバルを通して新しい仲間が広がっています。

当財団では、民間団体等が行う県民参加型の国際交流活動等に対して助成を行っています。交流をお考えの方は最寄りの財団事務所へご相談ください。

## 「国際青少年音楽祭 in カウナス2023 参加と訪問都市での文化交流」

(2023年4月30日～5月8日)

山陰少年少女合唱団リトルフェニックス 代表 原 礼子さん

この度、2009年に続き2度目のリトアニア・カウナスへの訪問を実現することが出来ました。初めての海外遠征の団員も多く、緊張と感激の連続でした。

音楽祭では、「きなんせ節」や「関の五本松」を傘や扇子を使って披露し、拍手が鳴りやまないという貴重な経験を、現地合唱団と歌った「ふるさと」や「Lakštingalų pilis」では、音楽で一体となる喜びを得て、団員自身も感動しました。その他、高齢者福祉施設や子供達のリハビリ施設にも行って演奏し、日本から持参した折紙で日本の文化も紹介しました。

ホームステイ先では、英語での会話に苦戦しましたが、言葉は通じなくても理解し心は通じ合えたようです。リトアニアの食事や習慣を知り、普段の生活の有難さを知った団員もいました。

お互いを知り、交流によって生まれる人と人との繋がりが、とても温かく、団員の心にも深く刻まれたようです。来年はブルガリアの合唱団を迎え、演奏会を開催します。今後とも国際交流活動を継続していきたいと思えます。



ホームステイ先の皆さんと



▲現地合唱団との合唱



▲ケアホームでのコンサート



▲リハビリセンターでは折紙で交流

## 「第14回モンゴル友好交流の翼 訪問団派遣事業」

(2023年7月22日～7月29日)

鳥取県モンゴル中央県親善協会 会長 河本 義永さん

25年前から隔年でモンゴル中央県に訪問団を派遣しています。今年はコロナ禍を経て4年ぶりに21名が訪問しました。交流のメインは、モンゴル中央県と当協会が共同で運営している「日本語学級」の生徒達による日本語弁論大会です。学級生代表9名が「私の好きなこと」を堂々と発表。我々訪問団が審査員となり、優秀者を表彰しました。また、歌や踊りなどの発表もすばしかったです。続くミニ運動会では、学級生の保護者やホームステイの家族達も加わり「綱引き」と「パン食い競争」で、大いに汗を流し笑いました。また、日本の代表的食文化「おにぎり」を皆で和気あいあいと作って食べました。

ホームステイは2名一組で2泊。各組とも食事や習慣にビックリしながらもモンゴルの日常生活を体験。そして、モンゴル中央県100周年記念ナードムと一緒に参加するなどして交流を深めました。

21年前から派遣の翌年には受入をしています。来年は、モンゴルの子供たちを鳥取県に招き、学校への体験入学やホームステイ等で、広く県民の方々との交流を図ることとしています。



▲綱引き(日本人・モンゴル人混合チーム)



▲日本料理体験おにぎり作り



▲モンゴル中央県100周年記念ナードム開会式



日本語弁論大会(9人が発表)

# コロナ後の世界

今回は、国際交流コーディネーターが久しぶりに里帰りした台湾の様子について紹介します。

## 再会！そうだ台湾へ行こう

中国語コーディネーター 羅房 健美 (ラハウ チェミ)

久しぶりの里帰り、私よりも高校1年生の息子の方が興奮していました。息子は2019年の夏休み以来、4年ぶりの台湾だったので、毎日台湾でやりたいことや食べたいものリストを作っていました。4年前まだ小学生だった息子が、今はどういう風に久しぶりの台湾を見るのか、私も楽しみでした。

岡山空港からの出発で、3時間弱で台湾に着きました!「スーツ」と強く台湾の空気を吸い込み、懐かしい〜と笑顔が絶えない私たち。まずは空港のコンビニに立ち寄って、台湾のコンビニを象徴する匂い「茶葉蛋」(ウーロン茶の味付け玉子)を購入し、高速バスで台中へ向かいました。バスの窓から見た街の風景、スクーターの荒い運転、聞こえてきた中国語や台湾語、運転手さんの怒りっぽいけど本当は優しい話し方、どれも台湾へ帰って来た〜と実感させてくれました。

朝から市場へ行き、地元の人しか入らないお店で朝食をとり、そのまま市場でいろいろなフルーツや飲み物を買ったり、パワフルなおじさん・おばさんたちとお喋りしました。息子がコロナ禍の4年間独学で覚えた中国語の出番だと思いきや、超高速スピードで話しかけられたので、全然聞き取れなかったと、私に助けを求めた息子は、やっぱり台湾人のパワーが凄いわ〜と苦笑いしていました(笑)。

10日間と短い里帰りでしたが、久しぶりに家族団欒ができて、何より幸せでした。次回は冬休みかな?と今から楽しみにしていきたいと思えます。



▲インスタグラム映える台湾料理



▲台湾の屋台グルメ



▲「茶葉蛋」(ウーロン茶の味付け玉子)

JICA

デスクより  
お知らせ

## JICA海外協力隊 説明会のお知らせ

「海外協力隊って何をするの?」「資格はあるの?」「語学に自信がないけど大丈夫?」そんな疑問に全てお答えするための、説明会を開催します!

事業概要や制度説明のほか、協力隊OBによる体験談、また現在派遣中の隊員とのオンライン中継があり、現地の様子を垣間見ることができます。どのような職種が向いているかなどの個別相談の時間もありますので、是非ご活用ください。

2023年度秋募集の応募期間は11月1日から12月11日までなので、早めの準備をおすすめします!!

〈場所〉とりぎん文化会館第5会議室 〈日時〉11月25日(土) 14:00~16:00 ※無料、申し込み不要

お問い合わせ 鳥取県JICAデスク(担当: 首藤 しょう) 〒680-0846 鳥取市扇町21 鳥取県立生涯学習センター(県民ふれあい会館)3階

TEL: 0857-51-1165 FAX: 0857-51-1175 Eメール: jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp

facebook: <https://www.facebook.com/jica.tottori/>



▲2023年春募集説明会の様子